

岡山小学校校庭遺跡
(1・2次調査)
埋蔵文化財発掘調査報告書

福岡県八女市鶴池所在遺跡の発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第95集

2013

八女市教育委員会

岡山小学校校庭遺跡
(1・2次調査)
埋蔵文化財発掘調査報告書

福岡県八女市鵜池所在遺跡の発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第95集

2013

八女市教育委員会

序

八女市の西部に位置する鶴池・室岡地区には弥生時代を中心とした遺跡が数多く存在していると考えられ、果樹園や畑地を観察すると土器や石器などの破片が地表に姿を現しており、地下に包蔵されている遺跡の多さを物語っています。

両地区の境には矢部川の支流である山ノ井川が西流しており、近隣の田畑を現在も潤し続けています。古代から永々と続く人々の営みは、この矢部川水系の恵みを享受する事が出来た結果である事を実感します。

遺跡が数多く埋蔵されている事は予測されていたものの、実際の発掘調査が本格的に実施されるのは昭和後半の時代に入って以後の事になります。昭和37年に亀ノ甲遺跡（調査後消滅）の土取り作業に伴う出土遺物の採集・調査が行われた事を皮切りに、昭和50年代後半以後、平成9年度までの間に行われた八女西部地区圃場整備に伴う事前の発掘調査が行われ、特に平成8年度の立野・大坪遺跡の調査においては九州で2例目となる弥生時代前期の2重環濠が見つかり、当地にはまだまだ我々の知らない多種多様な歴史が眠っている事がわかりました。

今回の報告は昭和61年度と平成8年度に行われた発掘調査の内容を広く公開する事で地下に埋没している遺跡に対する深いご理解を頂く事を目的としております。

本報告書が当該遺跡のみならず、市内に点在する文化遺産を深く理解する一助となり、より文化財愛護の心を育むことに寄与出来るのであれば幸甚の極みであります。

最後に、当該遺跡の発掘調査に格段のご理解を頂きました岡山小学校の関係者の皆様をはじめとする各位、及び、地元地域の皆様方には並々ならぬご協力と応援を頂きました。

深く御礼を申し上げるとともに、今後の文化財行政につきまして、これまで以上の暖かいご声援を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年3月31日

八女市教育委員会

教育長 西島 民生

例 言

- 1 本書は、八女市鶴池所在の岡山小学校敷地内において実施した埋蔵文化財発掘調査を記録した調査報告書である。
- 2 発掘調査は八女市教育委員会が実施した。発掘調査は昭和61年度、及び、平成8年度に行い、整理作業及び報告書作成については平成24年度に行った。
- 3 発掘調査で検出した各遺構の名称・番号は、その種類毎に記号を付し、建物関係をSBとし、溝状遺構をSD、土壇をSK、ピットをSP、不明遺構をSXと表記した。
- 4 本書に使用した現地測量図については調査担当者を中心として参加者で分担して行った。なお、測量にかかる基準については任意の基準を設定し測量を行った後、国土地理院設定の日本測地系を当てはめている。
各測量図の浄書及び出土遺物の実測図作成・浄書については岩戸山歴史資料館において行った。
- 5 本書に使用した現地写真については赤崎が行い、出土遺物については岩戸山歴史資料館において大塚が撮影した。
- 6 本書使用の方位については、すべて磁北である。
- 7 本書の執筆・編集は大塚が行った。
- 8 本書に関する調査記録、及び、出土遺物は八女市の岩戸山歴史資料館において保管・收藏している。

本文目次

第1章 調査の経過	1
A 調査に至る経過	1
B 調査体制	1
第2章 遺跡の立地と歴史的環境	3
第3章 調査の内容	7
発掘調査の概要	
A 昭和61年度の調査	8
1) 遺構と出土遺物	
B 平成8年度の調査	18
1) 遺構と出土遺物	
第4章 まとめ	24

表 目 次

第 1 表 出土遺物観察表

図 版 目 次

PL 1～PL 2	岡山小学校校庭遺跡 1・2 次調査 遺構写真
PL 3～PL 5	岡山小学校校庭遺跡 1・2 次調査 遺物写真

挿 図 目 次

- 第 1 図 岡山小学校校庭遺跡周辺の遺跡分布図 [1/25,000]
第 2 図 岡山小学校校庭遺跡位置図 [1/2,000]

〈1次調査〉

- 第 3 図 岡山小学校校庭遺跡1次調査 遺構配置図 [1/200]
第 4 図 SB-01 実測図 [1/80]
第 5 図 SB-02 実測図 [1/80]
第 6 図 SB-03、SK-01 実測図 [1/80]
第 7 図 SB-04 実測図 [1/80]
第 8 図 SB-05 実測図 [1/80]
第 9 図 SB-06 実測図 [1/80]
第10図 SB-08 実測図 [1/80]
第11図 SB-09 実測図 [1/80]
第12図 SB-11 (1号掘立柱住居) 実測図 [1/80]
第13図 SB-12 (2号掘立柱住居) 実測図 [1/80]
第14図 SK-02 実測図 [1/40]
第22図 SB-01・06 出土石器 実測図 [1/2]
第23図 SB-01~03 出土土器 実測図 [1/3]
第24図 SB-04~09、SD-01 出土土器 実測図 [1/3]
第25図 SK-01~06 出土土器 実測図 [1/3]

〈2次調査〉

- 第15図 SB-01 実測図 [1/40]
第16図 岡山小学校校庭遺跡2次調査 遺構配置図 [1/200]
第17図 SB-03 実測図 [1/40]
第18図 SK-01 実測図 [1/40]
第19図 SK-02 実測図 [1/40]
第20図 SK-03 実測図 [1/40]
第21図 SX-01 実測図 [1/40]
第26図 SB-01~03、SK-01~03、SX-01 出土土器 実測図 [1/3]
第27図 SD-01 出土土器、SB-02・03 出土石器 実測図 [1/3]

第1章 調査の経過

A 調査に至る経過

八女市の西端部に位置している鵜池地区周辺は、本格的な発掘調査に着手される以前より表面採取される弥生時代の遺物の多さから、八女市内においては稀な埋蔵文化財密集地である事が予測されていた。

しかしながら、本地区における本格的な発掘調査は平成5年度から実施された八女西部地区圃場整備事業に係る事前発掘調査まで待たねばならなかった。

今回の発掘調査は岡山小学校敷地内における施設新設に伴うものであるが、八女市教育委員会学校教育課と岡山小学校との折衝を重ねた結果、掘削が地下の埋蔵物に及ぶ部分についてのみ発掘調査を行い、これ以外については現状保存の策が採られた。

B 調査体制

【昭和61年度】

〔調査主体〕 八女市教育委員会

教育長	坂田 不二夫
社会教育課長	牛島 景資
同 係長	杉山 信行
同 係員	梅野 満
同 係員	平田 高義
同 係員	平島 芳子
同 係員	赤崎 敏男（発掘調査担当）

【平成8年度】

〔調査主体〕 八女市教育委員会

教育長	樋口 欽一
	小川 勲（平成9年2月まで）
生涯学習課長	杉山 信行
同 補佐	下川 文比古
文化財係長	赤崎 敏男（発掘調査担当）
同 係員	中川 寿賀子
同 係員	大塚 恵治
同 嘱託	山田 朗子

【平成24年度】

〔調査主体〕 八女市教育委員会

教育長	西島	民生
教育部長	井上	俊裕
文化課長	井上	富雄
同 参事補佐	北島	一雄
同 係長	大塚	恵治（整理担当）
同 係員	永田	寧
同 係員	渡部	真弓

なお、発掘調査にあたり、岡山小学校関係各位、近隣に居住される住民の皆様、そして鶴池地区の方々には多大なるご配慮とご理解を戴きました。紙面ではありますが、記して感謝申し上げます。

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

【地理的環境】

八女市は平成22年2月1日に旧八女郡に所在していた立花町、黒木町、星野村、矢部村の2町2村と合併し、福岡県下で2番目に広い行政区域をもった新たな「八女市」としてスタートする事となった。

現在、西を筑後市、東を大分県日田市、南を熊本県山鹿市と接する広大な県境の自治体となり、多様な生産活動が見られる希有な行政体となっている。東の山間部では杉や檜を中心とした林業が盛んであり、その地形を巧みに利用した文化的景観としての棚田も多数見られる。また、中山間部においては地域の気象条件の恩恵を受け、高級茶葉である玉露や良質な巨峰などの生産が盛んに行われている。平野部では福岡県産の苺の主力である「あまおう」や梨、電照菊などを生産している。

これらの生産活動を可能にしている立地は、耳縄山地と福岡・熊本両県を区する筑肥山地により「コ」の字状に囲まれ、大分県との境にそびえる釈迦岳山地に源を発し有明海に向け西流する一級河川である矢部川が形成したものである。流域面積647km²を誇る福岡県下第3の大河であり、古来より水上運搬に供され現市域で行われた産業すべての要であった。

しかしながら、時代の流れとともに八女市内で生産される文物の大半は陸上輸送に徐々にシフトし、今では水上輸送手段はほぼ皆無となっている。

現在の交通事情を概観すると、八女市内には大分県まで延びる国道442号線が東西に走り、交通量の増大に比例しバイパス道路の建設・開通も急ピッチで進んでいる。また、西部地区には九州の大動脈である国道3号線や九州縦貫自動車道が南北を貫いており、八女西部地区はまさに九州のクロスロード的な性格を持っている。

【歴史的環境】

岡山小学校校庭遺跡は福岡県八女市鶴池に所在している。

当該地周辺は以前より弥生時代を中心とした埋蔵文化財が数多く存在している地区として知られていた。平成12年度～13年度に行われた西山ノ上遺跡の調査により、これまであまり知られていなかった弥生時代後期における拠点集落の存在と鉄器製作の動向についても、その在り方が少しずつ解明できるようになってきた。

以下、主に八女市西部地区における概要を記し、当遺跡を理解する一助としたい。

（概要）

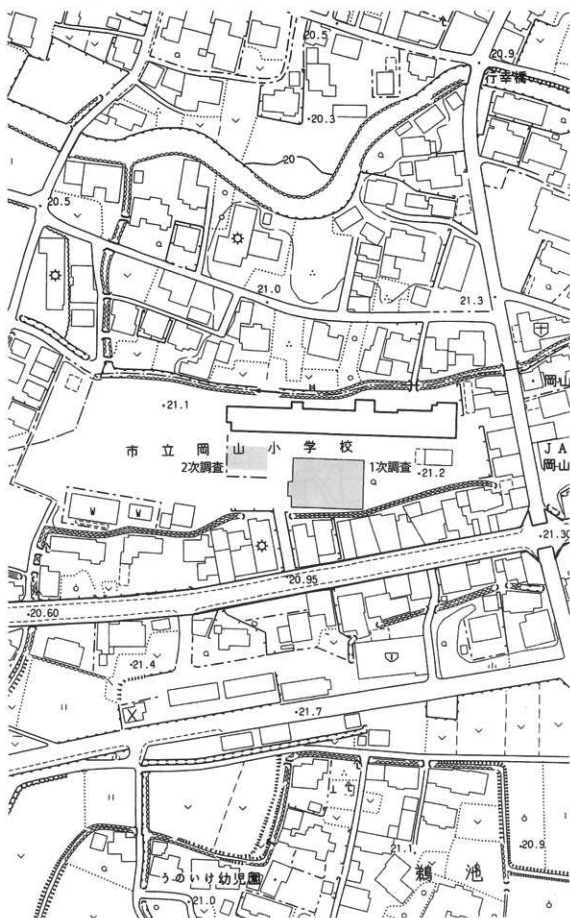
八女市西部地区における遺跡の初現期は縄文時代前期まで遡る事が出来、国武遺跡群や平田遺跡群等では押型文土器が数多く出土している。同後期に入ると、アモメ遺跡において小規模な円形の竪穴式住居や、少数ながら墳墓が見られるようになり、移動狩猟採集生活から定住化の兆しが見られるようになる。

弥生時代に入ると、立野・大坪遺跡や亀ノ甲遺跡、宿町遺跡等の前期後半の環濠遺跡が出現する。立野・大坪遺跡や宿町遺跡は直径100m前後の貯蔵穴専用環濠と思われるのに対し、亀ノ甲遺跡の環濠は推定直径200mを超える大規模なものであり、全容は捉えられていないが環濠集落的な要素を持つ遺跡である。市内では未だ当該期にかかる本格的な稲作関連遺跡は発見されていないが、稲作と環濠遺跡はセット関係になる事が多く、これら遺跡の出現期には既に稲作が導入、または、定着していたものと考えられる。中期に入ると、これまで見られた様相とは異なった状況が展開する。中期前半から中頃にかけては竪穴式住居が散発的にしか存在しないようになり、環濠のように大規模な土木工事を伴う遺構は全く確認出来な



1. 西山ノ上遺跡 1・2次調査
2. 西中沢遺跡
3. 坊野遺跡
4. 弥五郎遺跡
5. 野口遺跡
6. 室岡工業団地内遺跡
7. 室岡・山ノ上遺跡
8. 亀ノ甲遺跡
9. 北小路遺跡
10. 道添遺跡
11. 岡山小学校校庭遺跡
12. 樋の口遺跡 2次
13. 立野大坪遺跡
14. 篠原遺跡
15. 中里遺跡
16. 六反田遺跡
17. 野田遺跡
18. 深田遺跡
19. 京田遺跡
20. 宿町遺跡
21. 岩崎遺跡群

第 1 図 岡山小学校校庭遺跡周辺の遺跡分布図 [1/25,000]



第 2 図 岡山小学校校庭遺跡位置図 [1/2,000]

ようになる。ところが中期後半頃になると、六反田遺跡のように大規模な集落域と墳墓域がセットになって出現するなど、再び大規模な土木工事を伴うべき大集落形成の萌芽が見られるようになる。また、前述した立野・大坪遺跡などから鉄器が出土するようになるなど、その普及と前後し、変化の著しい時代様相の到来が看取出来る。後期に入ると、各地で大規模な集落が形成されるようになる。室岡地区に所在する野口遺跡や道添遺跡、室岡工業団地内遺跡では鉄器や砥石が出土している。矢部川に面した南部地区では

現在のところ大規模集落は発見されていないが、アモメ遺跡では非常に密集度の高い貯蔵穴群が発見されており、近くには墳墓群も存在することから、近接した区域に大規模な集落が存在するものと思われる。また、同地区内に所在する茶ノ木ノ本遺跡の甕棺墓群からは方格規矩鏡、深樋式銅剣、鉄戈が出土しており、これらの事象は在地有力者の台頭と共に、大規模集落同士の統合が進んでいる事を連想させる。

これと時をほぼ同じくして室岡台地上に所在する亀ノ甲・山ノ上周辺においても土地利用が再開し、地形を人為的に開削し前代とは比較にならない程の大環濠集落を形成する。西山ノ上遺跡や国道442号線バイパス建設関係の遺跡群がこれに該当し、特に前者においては原始鍛冶の痕跡とともに多量の鉄片、大陸由来の鋳造鉄斧片などの当時最先端の鉄素材が多量に出土するなど、一気に弥生時代における全盛期を迎える。しかしながら、西山ノ上遺跡が見せるように後期後半～末頃にかけて鉄素材を投棄したり、居住域を大幅に縮小する傾向が見られる。原因は定かでないが、瀬戸内地区で多く見られる高地性集落の発生時期と重なるところもあり、注意すべき点と思われる。

古墳時代に入ると、地域的な隔たりはあるものの、北部丘陵上（以下、八女丘陵）では4世紀前半頃から5世紀前半にかけて方形周溝墓や小円墳が造られるようになる。辻の西遺跡（1・2次調査）や立山山古墳群がこれに挙げられ、比較的小さな墓域の中で造墓活動を行っている事がわかる。5世紀前半になると八女丘陵上に大規模な古墳が次々に築造される。所謂、筑紫君一族が築いた八女古墳群であり、その初現は広川町所在の石人山古墳（108m）である。内部主体たる初期横穴式石室には直弧文を浮き彫りした家型石棺が納められており、最古級の装飾古墳としても知られる。5世紀後半代になると八女古墳群中から大型前方後円墳は姿を消す。しかし、これを補完するように瑞王寺古墳（直径26m 円墳）、欠塚古墳（墳丘長45m 前方後円墳）、本6号墳（直径41m 円墳）、釘崎2号古墳（墳丘長約47m 前方後円墳）、丸山古墳（墳丘長55m 前方後円墳）等の古墳が次々に築造される。しかし、50m前後の中規模から逸脱しない点に、首長墓系列の一時的な不在を読み取る事が出来る。6世紀前半～中頃になると、筑紫君全盛期を築いた磐井が築造した岩戸山古墳（墳丘長135m 前方後円墳）が出現する。日本書紀等にある磐井の乱後は、それまで単一的に連なっていた首長墓系譜が岩戸山以後は乗場古墳（墳丘長約70m 前方後円墳）、善蔵塚古墳（墳丘長約90m 前方後円墳）、鶴見山古墳（墳丘長87.5m 前方後円墳）など、複数の大型前方後円墳が出現し、首長系列の複数化を暗示している。6世紀後半代になると直径10m前後の小円墳が爆発的に増加すると共に、後半～末頃には前方後円墳は完全に姿を消し、童男山古墳（直径48m 円墳）などの大型円墳が出現する。しかし、7世紀初頭以後、これらの古墳に後続する大型古墳は全く見当たらず、歩調を合わせるかのように後期群集墳も姿を急速に消してゆく。

これらの現象を最後として、八女古墳群は終焉を迎える事となる。

第3章 調査の内容

発掘調査の概要

昭和61年度と平成8年度において実施した発掘調査は、老朽化した体育館の新設、及び、合併浄化槽の設置が事業原因であったため、学校の授業や行事に対する支障が発生しないよう注意が必要であったため、騒音問題、調査環境問題等、発掘調査は困難な点が多いものと思われた。事業者である八女市教育委員会学校教育課とは事業の計画が伝えられた頃から協議を進めており、その協議の中において「事業地が周知の埋蔵文化財包蔵地に存在する事から、発掘調査が行われる期間を勘案し、確認調査を実施し埋蔵文化財に影響を及ぼす可能性のある掘削作業を伴う部分において埋蔵文化財が確認された場合、発掘調査を実施して頂く。」旨の承諾を頂いた。

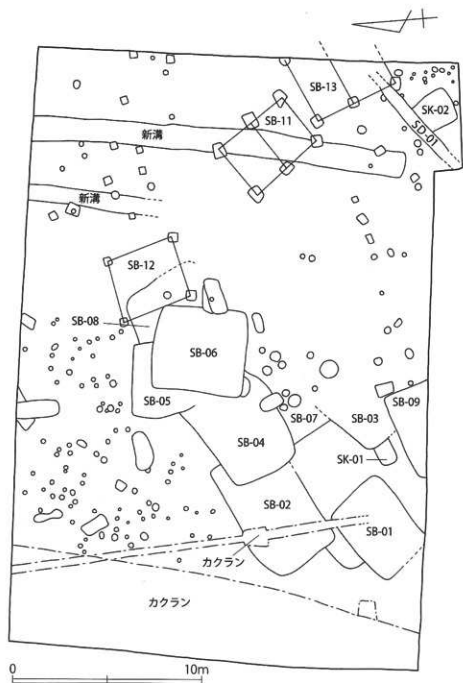
昭和61年度の発掘調査は新設体育館部分にあたる全範囲の調査を行い、弥生時代後期を中心とした遺構を検出。数多くの遺物が出土した。

平成8年度は現校舎西端部南側部分に新設する合併浄化槽設置に係る事前発掘調査を行い、体育館新設時の調査と同じく弥生時代後期を中心とする遺構・遺物が出土した。

発掘調査の全工程終了後、平成24年度中に出土遺物等の整理作業を終了させ本報告に至る事となった。

以下においては、各調査の結果について報告を行う。

〔昭和61年度の調査〕



第3図 岡山小学校校庭遺跡1次調査 遺構配置図 [1/200]

昭和61年度調査

昭和61年度は体育館新設部分を対象として調査を行った。新設部分のみの調査であるため調査面積は非常に限られているが、約700㎡分の調査を行う事が出来た。

以下、調査に係る部分について言及し、全体像については後述する。

1) 遺構と出土遺物 (期間:昭和61年4月1日～昭和61年4月19日)

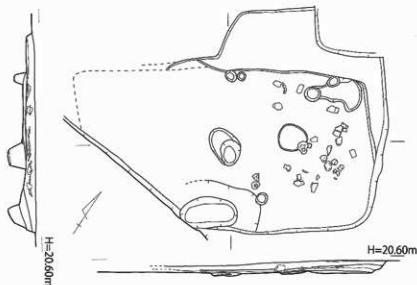
岡山小学校校舎南側に計画された新設の体育館建設事業地をその調査対象とした。

表土を除去したところ、後世に攪乱された痕跡も多少見られたものの、古代の遺構が比較的良好な状態で遺存している事が判明した。

検出した遺構は竪穴式住居(SB)9軒、掘立柱建物(SB)3棟、溝(SD)1条の他、ビット多数等を確認した。

SB-01 <第4図>

調査区南西端において検出した平面プランが長方形を呈する竪穴式住居である。遺構本体の一部をSB-07が切っている。長軸方位をN-55°-Eに取り、規模は推定長軸長6.3m、短軸長3.5m、深さ0.25mを測る。検出部分の南東端にある横長の土壇は屋内土壇と思われる、東側隅には直径25cm程の小穴が穿たれている。本来は1対のものである事から西側隅にもあったものと考えられる。主柱穴については明確に出来なかった。

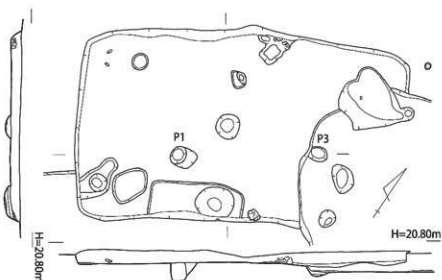


第4図 SB-01実測図 [S=1/80]

SB-02 <第5図>

調査区南西端付近において検出した平面プランが長方形を呈する竪穴式住居である。遺構本体の一部をSB-04、SB-07が切っている。長軸方位をN-60°-Eに取り、規模は推定長軸長6.8m、短軸長4.1m、深さ0.25mを測る。住居中央には地炉が設けられ、その南西側には2.0m×0.7mの長方形掘方内に直径0.8mの円形屋内土壇が付設されている。屋内土壇の反対側長辺中央には4個体の集石があり、住居の廃絶に関わる出土物の可能性もある。主柱穴に該当するビットとしてP1・P3が想定され、2本柱の建物であったと思われる。

出土遺物として、弥生式土器の甕・壺形等の破片、及び、挟入片刃石斧破片がある。

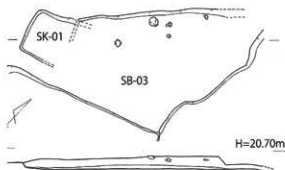


第 5 図 SB-02 実測図 [S=1/80]

SB-03 <第6図>

調査区南西側において検出した平面プランが長方形を呈すると思われる竪穴式住居である。削平により遺構の大半を欠失しており詳細は不明。SB-07を切っている。長軸方位をN-48°-Eに取り、規模は長軸長3.1m、短軸長不明、深さ0.25mを測る。

出土遺物として、弥生式土器の甕形、小型の壺形、高坏脚部の破片等がある。

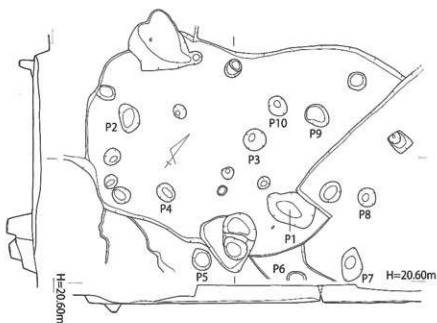


第 6 図 SB-03、SK-01 実測図
[S=1/80]

SB-04 <第7図>

調査区西側中央付近において検出した平面プランが長方形を呈すると思われる竪穴式住居である。SB-02・07を切り、遺構本体の一部をSB-05・06が切っている。長軸方位をN-71°-Eに取り、規模は長軸長5.6m以上、短軸長4.0m、深さ0.4mを測る。屋内土壇、地炉ともに不明確ではあるが、主柱穴と思われるP2・P3の間にある直径30cm程の小穴が地炉と思われる。この場合、発掘調査当時SB-04と認知されていた遺構は平面プランが著しく

不整形になるが、これはP1を中心とする円形住居が同時に検出されたと想定すれば整合性がとれる。仮にP1を中央土壇と仮定した場合の円形住居の直径は約7.2mが推定され、主柱穴はP4~P10がこれに相当するものと思われる。この推定をを傍証するように、検出プランの北~北西側の延長線は半円形に湾曲している。

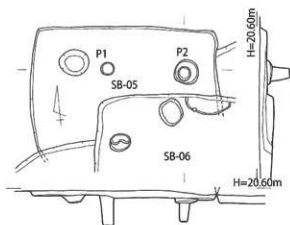


第 7 図 SB-04 実測図 [S=1/80]

SB-05 <第8図>

調査区中央付近において検出

した平面プランが方形を呈すると思われる竪穴式住居である。SB-04・08を切り、遺構本体の半分程をSB-06が切っている。長軸方位をほぼ南北に取り、規模は南北長2.56m以上、東西長3.94m、深さ0.15mを測る。屋内土壌、地炉ともに不明確ではあるが、主柱穴と思われるP1・P2が北辺側に寄りすぎていることから、南辺沿いにもう2つ主柱穴の存在が予測される。これにより本住居は4本柱建物となり、平面プランも正方形に近づくものと思われる。

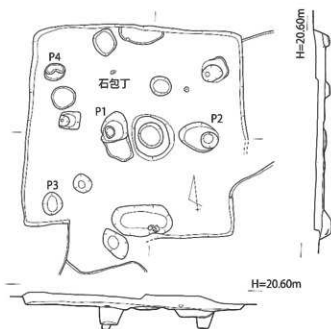


第 8 図 SB-05 実測図 [S=1/80]

SB-06 〈第9図〉

調査区中央において検出した平面プランがほぼ正方形を呈する竪穴式住居である。調査区内の竪穴式住居の中で最も新しく、SB-04・05・08を切っている。長軸方位をN-82°-Wに取り、規模は主軸長4.7m、短軸長4.44m、深さ0.3mを測る。南辺に沿いに1.27m×0.65mを測る長円形の屋内土壌が付設され、住居中央には直径1mの掘り方を有する地炉があり、焼土の遺存が認められる。中央炉に接するようにP1・P2の2つの主柱穴が認められる。P3・P4は住居隅に頻繁に認められる住居内土壌と思われる。

出土遺物として、甕形・壺形土器、石包丁等がある。



第 9 図 SB-06 実測図 [S=1/80]

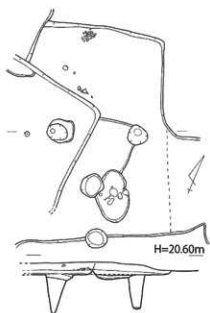
SB-07 〈第3図〉

調査区中央において検出されたとする竪穴式住居であるが、柱穴や屋内土壌、その他ピット等も見られず構造等に竪穴式住居であるとする確たる要素が見られないため、詳述は行わない。

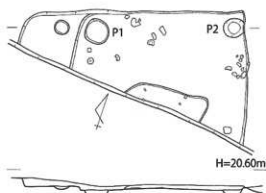
SB-08 〈第10図〉

調査区中央において検出した平面プランが長方形を呈するものと思われる竪穴式住居である。やや古手の竪穴式住居と思われ、SB-05・06に切られている。長軸方位をN-67°-Eに取り、規模は主軸長3.0m、長軸長4.4m前後、深さ0.25mを測る。北辺に沿いに24個の小石の集石が見られるが、これはSB-09と同様、住居廃絶時に伴う祭祀行為の結果であると思われる。主柱穴は2つ認められるが、柱穴間に地炉は認められない。

土器片が少量出土しているが、細片のため図化していない。



第10図 SB-08 実測図
[S=1/80]



第11図 SB-09 実測図
[S=1/80]

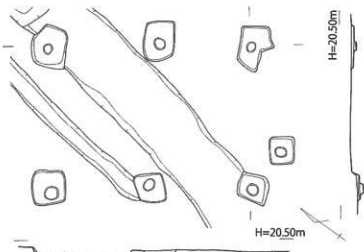
SB-09 〈11図〉

調査区南端において検出した平面プランが長方形を呈する竪穴式住居である。遺構本体の大半が調査区外にあり、詳細は不明である。主軸方位を $N-71^{\circ}-E$ に取り、規模は主軸長4.9m前後、短軸長2.8m以上、深さ0.25mを測る。住居西端にはベッド状遺構が付設されている。P1・P2は主柱穴ではなく、SB-06と同様、住居内の隅に付設される土壇であると思われる。主柱穴や中央の地炉は調査区外に出ている。東辺の北寄りにはSB-01・02・08と同様の集石があり、これも住居廃絶に伴う祭祀行為の結果であると思われる。

SB-11 (1号掘立柱住居)

〈第12図〉

調査区東端付近において検出した6本柱の掘立柱住居(建物)である。長軸方位を $N-36^{\circ}-W$ に取る1間×2間の側柱建物である。規模は3.04m×4.3m、床面積13.07㎡を測る。柱穴掘方プランは基本的に正方形を成している。底面には柱圧痕が残っており、重量物が集荷されていたものと思われる。

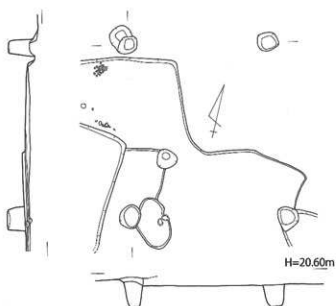


第12図 SB-11 (1号掘立柱住居)
実測図 [S=1/80]

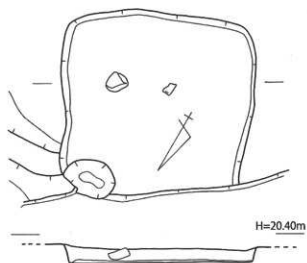
SB-12 (2号掘立柱住居)

〈第13図〉

調査区中央において検出した4本柱の掘立柱住居(建物)である。長軸方位を $N-14^{\circ}-W$ に取る1間×1間の建物である。規模は3.6m×3.3m、床面積11.88㎡を測る。柱穴掘方プランは不整形な方形を成し、全体的に小振の柱穴を成している。重量物の搬入には不向きと思われる。



第13図 SB-12 (2号掘立柱住居) 実測図
[S=1/80]



第14図 SK-02 実測図 [S=1/40]

SB-13

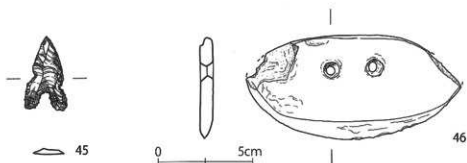
〈第3図〉

調査区東端において検出した6本柱の掘立柱住居（建物）である。長軸方位をN-21°-Wに取る1間×2間の側柱建物である。規模は4.5m×3.7m、床面積16.65㎡を測る。柱穴掘方プランは基本的に正方形を成している。底面には柱圧痕が残っており、重量物が集荷されていたものと思われる。

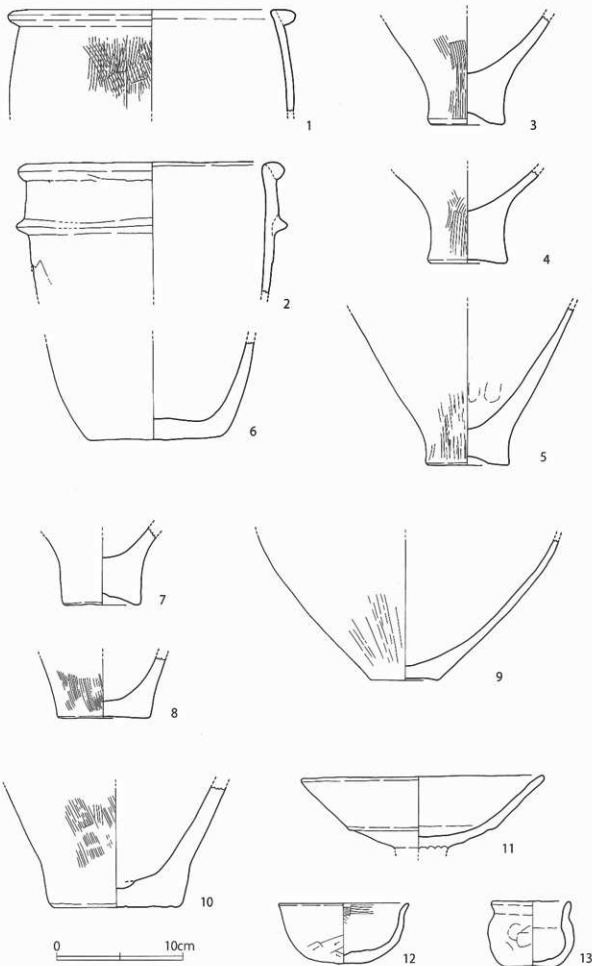
SK-02

〈第14図〉

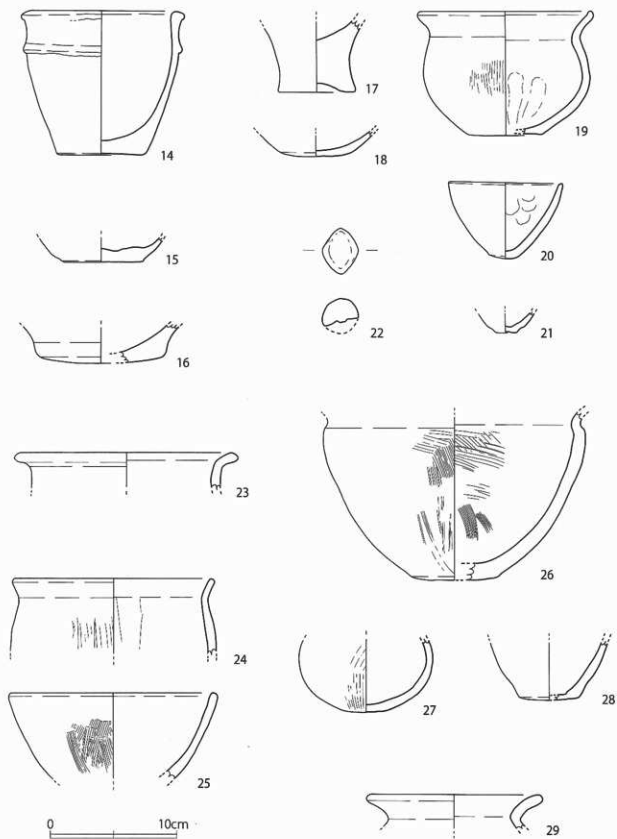
調査区南東端で検出した長方形の貯蔵穴である。長軸方位をN-33°-Wに取る。規模は1.96m以上×2.06m、深さ0.2mを測る。



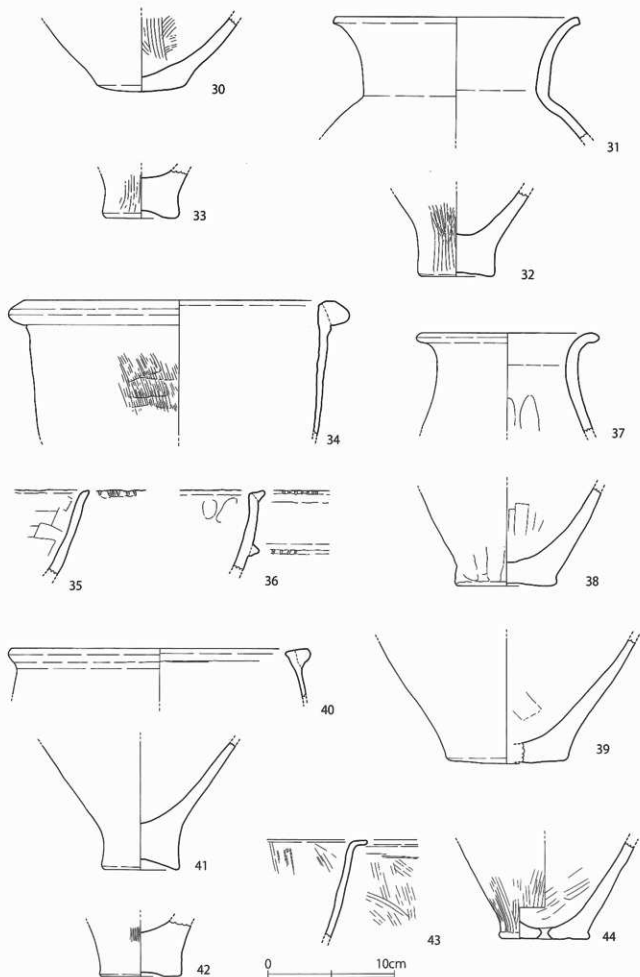
第22図 SB-01・06 出土石器 実測図 [S=1/2]



第23図 SB-01~03 出土土器 実測図 [1/3]



第24図 SB-04~09、SD-01 出土土器 実測図 [1/3]



第25図 SK-01~06 出土土器 実測図 [1/3]

〔平成8年度の調査〕

平成8年度調査

平成8年度は、現校舎南西側にある駐車スペースに合併浄化槽を設置するための事前発掘調査を行った。事業地は正門と校舎の間に位置しており、来訪者や通学児童の往来も多く、特に児童の安全面に考慮の重きを置きながら調査を行った。調査面積は180㎡と小規模ではあったが、遺跡の広がりについて確認出来た事は大きな成果の1つであった。

以下、調査に係る部分について言及し、全体像については後述する。

岡山小学校校庭遺跡2次調査における遺構と出土遺物

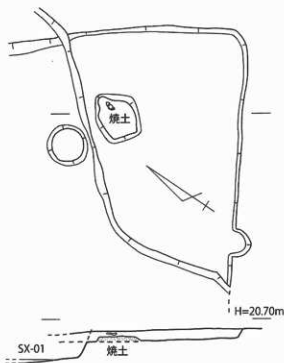
当該遺跡は八女IC建設の折に調査が行われた道添遺跡や室岡工業団地内遺跡から東南東570mの位置にあり、ランドマークとなる岡山公園山頂からは南西へ360mに位置している。

小学校として整備されているためか、比較的攪乱も多く遺構の検出がやや困難な面もあったが、円形・方形の竪穴式住居(SB)3軒、土壇(SK)3基、周溝状遺構(SX)1基、溝状遺構(SD)1条を検出した。

以下、各遺構について詳述する。

SB-01〈第15図〉

調査区中央において検出した平面プランが方形を呈すると思われる竪穴式住居である。遺構本体の大半を後世の削平とSX-01の切り込みによって失っている。長軸方位をN-60°-Eに取り、規模は長軸長2.68m以上、短軸長1.96m、深さ0.15mを測る。屋内土壇、地炉ともに欠失しているが、地炉に関連していると思われる焼土塊が北辺側に遺存している。主柱穴については不明。



第15図 SB-01 実測図
[S=1/40]

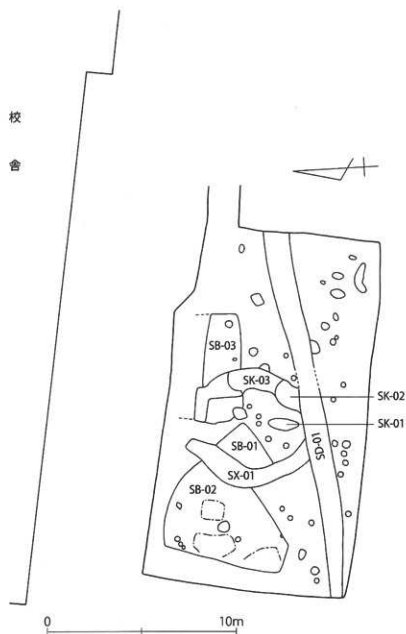
SB-02〈第16図〉

調査区西端において検出した平面プランが長方形を呈すると思われる竪穴式住居である。遺構本体の半分程を後世の削平、及び、SX-01の切り込みにより失っている。主軸方位をN-34°-Wに取り、規模は主軸長4.8m前後、直交軸長5.2以上m、深さ0.35mを測る。住居中央付近に地炉と思われる痕跡が残るが、判然としなない。

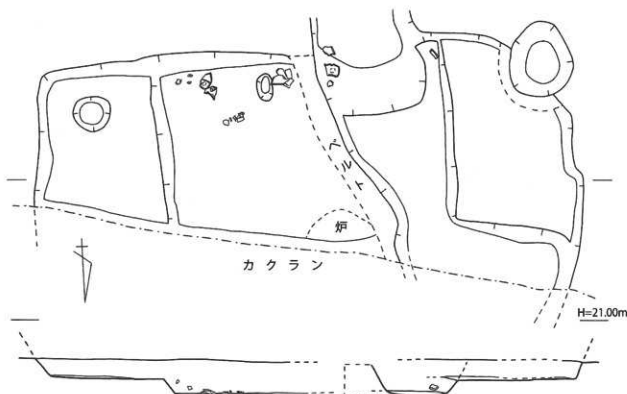
また、住居南端部分には直径10cm程の石材が7つ集中する集石遺構が見られるが、これは住居廃絶に伴う祭祀行為の結果であると思われる。主柱穴については不明。

SB-03〈第17図〉

調査区北端付近において検出した平面プランが方形を呈する竪穴式住居である。遺構本体の大半を後世



第 16 図 岡山小学校校庭遺跡 2 次調査 遺構配置図 (S=1/200)

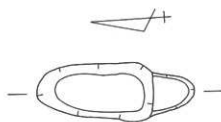


第17図 SB-03 実測図 [S=1/40]

の削平、及び、SX-01の切り込みによって失っている。長軸方位をN-87°-Wに取り、規模は長軸長5.76m、短軸長2.82m以上、深さ0.35mを測る。南辺中央付近には屋内土壌と思われる土壌が付設されている。また、北辺中央付近には地炉と思われる痕跡が遺存している。住居南西及び南東側は地炉のある面に対して15cm程高くなっており、ベッド状遺構の可能性もある。主柱穴については不明。

SK-01 <第18図>

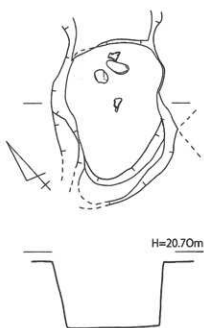
調査区中央で検出した平面プランが長円形を呈する土壌である。長軸方位をN-3°-Eに取る。規模は1.66m×0.62m、深さ0.2mを測る。南端部が一段高くなり枕状を呈している事や、規模や形態から土壌墓である可能性が高い。SX-01との位置関係から考えても、その妥当性は高いと考える。



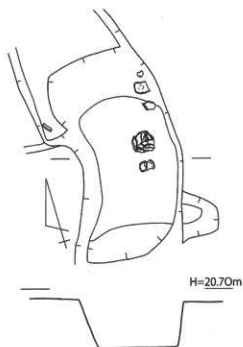
第18図 SK-01 実測図
[S=1/40]

SK-02 <第19図>

調査区中央で検出した平面プランが不整形な長方形を呈する土壌である。長軸方位をN-45°-Eに取る。規模は1.74m×1.3m、深さ0.7mを測る。発掘調査当時の担当者は本遺構を独立した土壌と判断していたようではあるが、断面形状や遺存部分の深さ、SX-01との遺構検出面の連続性を考えると同一の遺構と考える事の方が妥当性が高いと考えられる。周溝内土壌墓の可能性も考えてみたが、断面形・平面プランの状況から除外した。ここでは、SX-01の一部と捉えたい。



第19図 SK-02 実測図
[S = 1/40]



第20図 SK-03 実測図
[S = 1/40]

SK-03 <第20図>

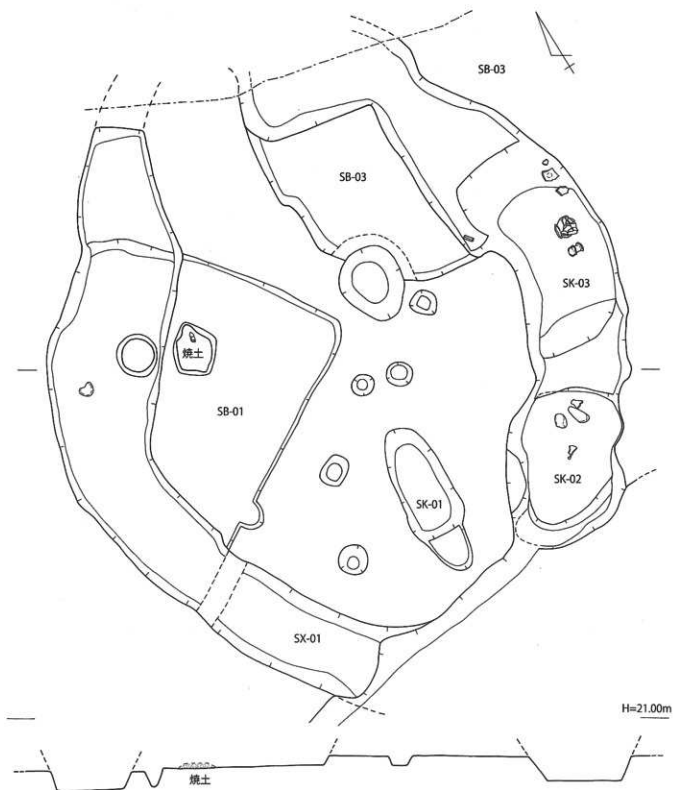
調査区中央で検出した平面プランが不整形な長方形を呈する土壌である。長軸方位をN-20°-Eに取る。規模は2.3m×1.14m、深さ0.52mを測る。SK-02と同様のもので、断面形状や遺存部分の深さ、SX-01との遺構検出面の連続性を考えると当該遺構についてもSX-01の一部と捉えたい。

SX-01 <第21図>

調査区中央で検出した平面プランが卵形に近い楕円形を呈する周溝状遺構である。長軸方位をN-3°-Eに取る。規模は主軸長6.6m以上、短軸長6.3m、深さ0.23m～0.66mを測る。隣接している他遺構の殆どに切り込んでおり、当該遺構が本調査区内において最も時期の新しいものの1つである事を物語っている。興味深い事はSX-01とSK-01の軸方位がほぼ一致する事であり、SX内でもSK-01に隣接するSK-02・03から集中的に遺物が出土する事は、SK-01を中心とする各遺構の連続性を示唆している。これらを考えあわせると、SX-01は主体部をSK-01にもつ楕円形の周溝墓となり、SK-02・03は埋葬時における墓前祭祀の痕跡を残す遺構として認識せねばならない。

SD-01 <第16図>

調査区南側を東西方向に延びる溝である。調査区中、最新の遺構。規模は検出全長19m、幅0.65m～1.35m、深さ0.45m～0.67mを測る。溝底面の標高は西端と東端で10cmの差があり、西に向かいレベルを下げていく。最上層において完形品に近い弥生土器が出土しているが、SX-01を含む全ての遺構を切る事や、暗茶褐色を中心とした一系色を呈しており、他の弥生期遺構に普遍的に入る黒色土が見られない点から考えて、本遺構は古墳時代以降の時期に属するものと考えたい。



第21図 SX-01 実測図 (S=1/40)

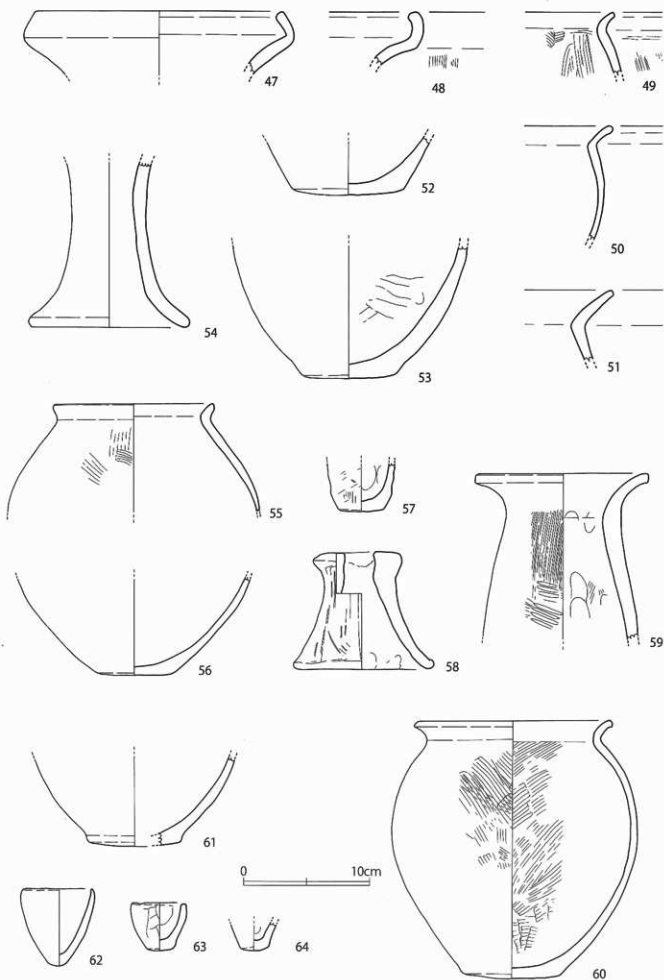
第4章 まとめ

昭和61年の1次調査、及び、平成8年の2次調査により学校施設建設に伴う発掘調査を行った結果、前述したような成果を得る事ができた。

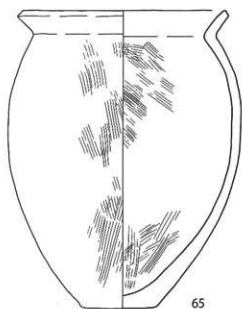
八女市鵜池地区は以前からの住宅密集地であり、大規模な開発行為も少なく、当該地区における遺跡の広がりやその内容については殆ど手がかりが無い状況であった。しかしながら、北西部を中心とした室岡遺跡群との位置関係から弥生時代に属する遺跡の広がりを指摘する声もあった事も事実である。

このような状況の中に開始された昭和61年の1次調査における遺構・遺物が検出された事は、室岡遺跡群との時期的・地理的繋がりを考える上で意義深いものであった。また、平成8年度の2次調査での結果は、八女インター建設時に調査が行われた道添遺跡において遺跡東側の遺構出土頻度が相対的に落ち、以東での遺跡の出現にやや懐疑的であった考えを払拭した。推定される事象としては、道添遺跡と岡山小2次調査地点の間に比較的大きな湿地状の自然地形があり、それが集落地拡大の障壁になっていたものと考えられる。

今回の調査は非常に限定的なものであった為、知り得た情報が少なかった事も否めない。しかしながら、今後は周辺の開発等により調査事例が増すものと思われ、本調査の成果が今後の鵜池地区における歴史解明の端緒になってくれるものと信じてやまない。



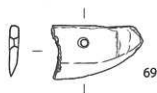
第26図 SB-01~03、SK-01~03、SX-01 出土土器 実測図 (S=1/3)



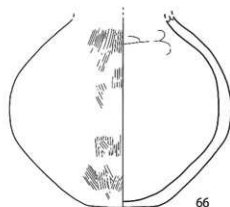
65



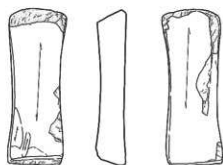
68



69



66



70



67



第27図 SD-01 出土土器、SB-02・03 出土石器 実測図 (S=1/3)

出土遺物觀察表

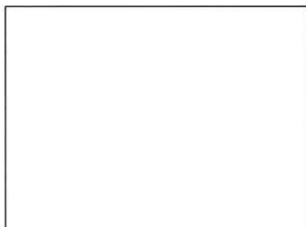
押回 番号	発掘 番号	実測 番号	出土遺構	機種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	色調、胎土、焼成	備 考
23	1	5	SB-0 1	甕	22			暗茶褐色、片岩細砂粒含む、良好	No. 5
"	2	52	"	甕	21			淡茶褐色、片岩・石英・赤色粒子含む、良好	No. 1 2
"	3	1	"	甕		6.1		黄褐色、片岩砂粒含む、良好	No. 5
"	4	3	"	甕		6.1		淡黄褐色、片岩・赤色粒子含む、良好	No. 1 3
"	5	51	"	甕		6.5		茶褐色、片岩砂粒多く含む、良好	No. 1 0
"	6	64	"	"		10.4		茶色、片岩微砂粒含む、良好	胎土精選
"	7	56	SB-0 2	甕		6.2		淡黄褐色、片岩砂粒多く含む、良好	甕土
"	8	57	"	甕		7.4		茶褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	甕土
"	9	55	"	甕		5.4		黄褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	No. 1
"	10	65	SB-0 3	甕		10		暗茶褐色、片岩・赤色粒子含む、良好	No. 1
"	11	59	"	高坏	19.2			淡黄褐色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	No. 2、胎土精選
"	12	6	"	鉢	10.3	4.6	4.8	茶褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	No. 5
"	13	7	"	鉢	6.3	3.8	5.1	茶褐色、片岩細砂粒含む、良好	No. 4
24	14	58	SB-0 4	甕	13	7	11.4	淡黄褐色、片岩・赤色砂粒多く含む、良好	P-1
"	15	4	SB-0 5	甕?		6.4		暗茶褐色、片岩・角閃石含む、やや不良	甕土
"	16	2	"	甕		9.6		淡黄褐色、片岩砂粒含む、良好	甕土
"	17	8	SB-0 6	甕		6.1		淡黄褐色、片岩砂粒含む、やや不良	甕土
"	18	62	"	甕		5.4		黄褐色、片岩微砂粒含む、良好	甕土
"	19	61	"	鉢	14	5.8	10	淡茶褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	No. 3
"	20	9	"	鉢	9.1	2.3	6	淡黄褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	No. 1
"	21	63	"	ミニチュア		1.6		淡茶褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	甕土
"	22	66	"	投弾	長さ 3.6	幅 2.9		淡黄褐色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	甕土
"	23	11	SB-0 7	甕?	17.8			黄褐色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	甕土
"	24	12	SB-0 8	甕	16			黒茶褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	甕土
"	25	13	"	鉢	16.4			暗茶褐色、片岩・角閃石含む、良好	甕土
"	26	68	SB-0 9	鉢		7		淡黄褐色、片岩・石英・角閃石含む、良好	No. 5
"	27	69	"	甕				淡茶褐色、片岩微砂粒含む、良好	No. 8
"	28	67	"	甕		4.8		黄褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	No. 2
"	29	15	SD-0 1	甕?	13.7			淡黄褐色、片岩・石英・角閃石砂粒含む、良好	
25	30	16	SK-0 1	甕		7		淡茶褐色、片岩・石英・角閃石砂粒含む、良好	No. 1
"	31	19	SK-0 2	甕	19.3			淡黄褐色、片岩・石英・角閃石砂粒含む、良好	
"	32	17	"	甕		6		淡黄褐色、片岩・赤色、角閃石砂粒含む、良好	
"	33	18	SK-0 3	甕		5.8		淡茶褐色、片岩・石英砂粒含む、やや不良	
"	34	23	SK-0 4	甕	23.8			淡茶褐色、片岩砂粒含む、やや不良	
"	35	28	"	鉢?				黒茶褐色、片岩・石英・角閃石砂粒含む、良好	
"	36	29	"	甕				淡黄褐色、片岩・石英・角閃石砂粒含む、良好	
"	37	27	"	甕	14.5			淡茶褐色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	
"	38	26	"	甕		8		黄褐色、片岩・石英・角閃石砂粒含む、良好	
"	39	22	"	甕		9.6		茶色、片岩・石英・角閃石砂粒含む、良好	
"	40	33	SK-0 5	甕	24			淡黄褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
"	41	31	"	甕		6.1		黄茶褐色、片岩砂粒含む、良好	
"	42	32	"	甕		6.5		黄茶褐色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	
"	43	72	SK-0 6	甕				茶色、片岩砂粒含む、良好	
"	44	71	"	甕		7		淡茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
22	45	54	SB-0 1	石罐	長 3.7	幅 2.2	厚 0.25	黒曜石、重さ2.1g	
"	46	60	SB-0 6	石包丁	長 11.3	幅 5.5	厚 0.7	片岩製、重さ7.0g	
26	47	31	SB-0 1	甕	19.6			黄褐色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	
"	48	32	"	甕				淡黄褐色、片岩・石英・角閃石砂粒含む、良好	
"	49	34	SB-0 2	甕				茶褐色、片岩細砂粒含む、良好	
"	50	36	"	甕				黄褐色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	
"	51	38	"	甕				黄褐色、片岩・赤色砂粒含む、良好	
"	52	35	"	甕		8.7		茶褐色、片岩・石英・角閃石砂粒含む、良好	
"	53	33	"	甕?		7.4		淡茶灰色、片岩・石英・角閃石砂粒含む、良好	
"	54	37	"	器台		12.3		淡茶褐色、片岩細砂粒含む、良好	
"	55	7	SB-0 3	甕	12.7			淡黄褐色、片岩砂粒含む、やや不良	No. 3
"	56	8	"	甕		5.8		淡黄褐色、片岩・石英砂粒含む、やや不良	No. 3
"	57	10	SK-0 1	ミニチュア		3.6		茶褐色、片岩砂粒含む、良好	ペルト内
"	58	41	SK-0 2	支脚	7	11.1	9.3	淡茶褐色、片岩砂粒含む、良好	No. 2
"	59	9	SK-0 3	器台	13.7			黄茶褐色、片岩・石英・赤色粒子含む、良好	No. 1
"	60	11	"	甕	15.6	7.7	20.4	淡黄褐色、片岩砂粒含む、良好	No. 2
"	61	2	SK-0 1	甕		7.2		淡茶褐色、片岩・石英砂粒含む、やや不良	
"	62	6	ミニチュア		5.6	1.4		淡黄褐色、片岩・石英砂粒少量含む、良好	
"	63	1	ミニチュア		4.3	2		茶褐色、片岩・石英・赤色粒子少量含む、良好	
"	64	5	ミニチュア			2.3		茶褐色、片岩砂粒含む、良好	No. 1
27	65	43	SD-0 1	甕	16.2	6	23.5	茶色、片岩・石英・角閃石砂粒含む、良好	No. 1
"	66	42	"	甕		5.6		茶褐色、片岩砂粒多く含む、良好	No. 3
"	67	45	"	甕				茶褐色、片岩・石英・長石砂粒含む、良好	下層
"	68	44	脚付鉢		15.5	10	13.3	淡黄褐色、片岩・石英・赤色粒子少量含む、良好	No. 2
"	69	39	SB-0 2	石包丁	長 7.0	幅 4.2	厚 0.75	片岩製、重さ322g	
"	70	40	SB-0 3	砥石	長 12.3	幅 4.6	厚 2.0	片岩製、重さ240g	

第1表 出土遺物観察表

PLATES

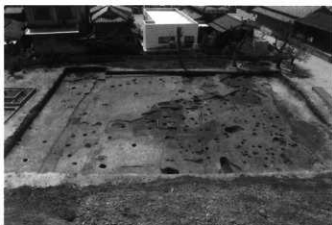
凡例

出土遺物に関する PL の記載は、以下の要領となっている。



遺構名

掲載番号



1次調査 調査区全景 (北より)



SB 04~06完掘状況 (北より)



SB-01・02 完掘状況 (南東より)



SB 03・09、SK-01 完掘状況 (北より)



SB-04 完掘状況 (北西より)



SB-06 中央状況 (南より)



SB-08 集石状況 (南東より)



岡山小学校から北方を望む (南より)



1次調査 調査区全景 (東より)



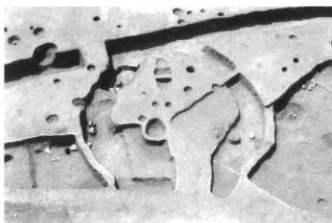
2次調査 遺構検出状況 (東より)



2次調査 調査区全景 (北より)



SB-03 完掘状況 (北より)



SX-01 完掘状況 (北より)



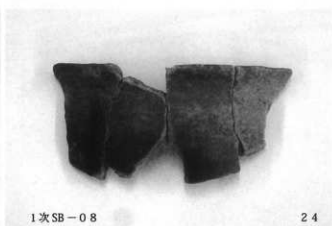
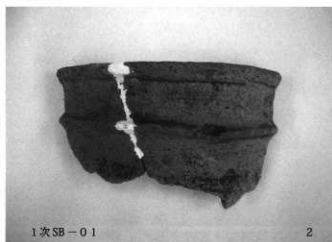
SD-01 完掘状況 (北より)

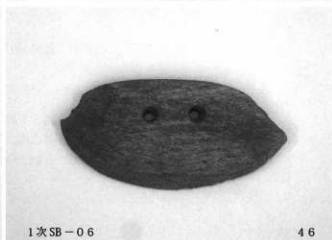
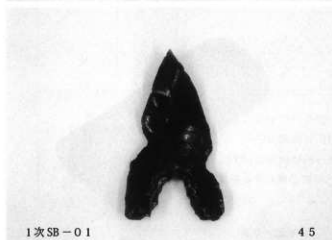


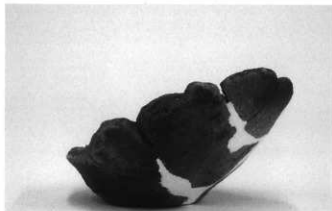
SB-02 完掘状況 (北西より)



SK-01 完掘状況 (西より)

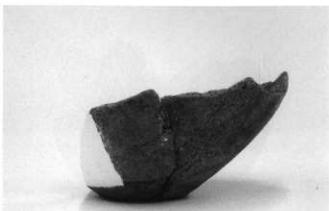






2次SB-02

53



2次SB-03

56



2次SK-03

60



2次SX-01

61



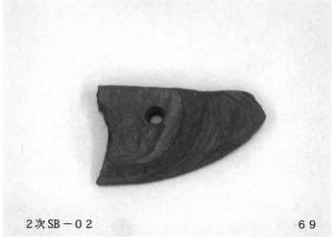
2次SD-01

65



2次SD-01

68



2次SB-02

69



2次SB-03

70

報告書抄録

ふりがな	おかやましょうがっこうていせい (1・2じょうさ)						
書名	岡山小学校校庭遺跡 (1・2次調査)						
副書名	福岡県八女市鶴池所在遺跡の発掘調査報告書						
巻次							
シリーズ名	八女市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第 95 集						
編著者名	大塚恵治						
編集機関	八女市教育委員会						
所在地	834-8585 福岡県八女市本町647 TEL 0943-23-1982						
発行年月日	西暦 2013年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
岡山小学校 校庭遺跡 (1・2次調査)	福岡県 八女市鶴池	402109	33°12'36"	130°31'42"	1986.4.1～ ～1986.4.19 1996.8～ ～1996.8	700㎡ 180㎡	体育館建設 浄化槽設置
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
岡山小学校 校庭遺跡 (1・2次調査)	集落	弥生時代 後期	竪穴式住居、 掘立柱住居(建物)、 周溝状遺構		弥生式土器		
要約	岡山小学校校庭遺跡は弥生時代後期に属する集落遺跡である。竪穴式住居を主体とした遺構が集中するが、一部に周溝状遺構も見られ隣接する室岡遺跡群の様相と酷似する。調査面積が狭く、十分な知見が得られたとは言いがたいが、弥生時代後期における遺跡群の広がりを把握する上で貴重な資料となった。						

岡山小学校校庭遺跡
(1・2次調査)
埋蔵文化財発掘調査報告書
八女市文化財調査報告書
第95集

平成25年3月31日

発行 八女市教育委員会
八女市本町647
印刷 (株) 東兄弟
八女市祈禱院563